

【生ごみリサイクル】ダンボールコンポストを試してみませんか

段ボールコンポストは自分で作れる生ごみ処理機です。可燃ごみの減量に、少ない費用で取り組みます。容器の作り方から基材選び等、様々な研究が行われており、取り組みが続けられています。

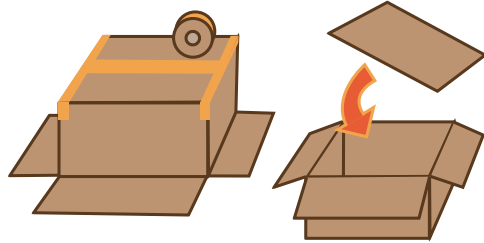


【必要な材料】

- ・段ボール箱…みかん箱程度の大きさ。厚手で強度のあるもの（二重構造）で防水加工でないもの
- ・二重底用の段ボール…強度を上げるために二重底にします。
- ・基材（ピートモス15リットル+もみ殻くん炭10リットル）
…おがくず、竹粉、腐葉土も基材となります。
- ・風通しのよい網目状の台…通気性を良くするため
- ・スコップ
- ・粘着テープ
- ・Tシャツ（防虫カバー用）

基材作り

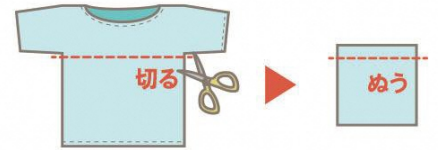
1. **ダンボール容器の組み立て**
ダンボールの底面を粘着テープでとめます。小さな隙間から虫が侵入するのでしっかり塞いでください。箱の内側底面にダンボールを敷きます。



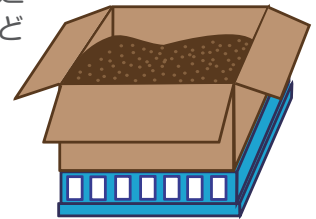
2. **基材作成**
基材（ピートモス、くん炭等）を3対2（15㍓と10㍓）の割合でダンボール箱の中に入れ、よくかき混ぜます。



3. **防虫カバー作り**
不要なTシャツを使い、首と腕の部分を切り取り、縫い合わせると簡単にできます。



4. **設置**
設置場所は、雨に濡れず風通しのよいベランダや玄関などが適しています。



手順

5. **生ごみ投入**

水切りした生ごみを段ボール箱の中に深めに入れます。ダンボールを傷めないように、箱の中央を軽く空気を含ませるようにかき混ぜます。ふたをし、Tシャツカバーでダンボール容器を包んで、虫が入らないようにします。1日に投入できる生ごみの量はおよそ500gが目安です。野菜など繊維質のものは刻んだ方が分解されやすいです。



6. **お手入れ**

- ・生ごみを入れなくても1日1回はかき混ぜ、空気を取り込みます。
- ・生ごみの分解が進むと温度が30度～60度位に上昇します。
- ・基材の温度が上がらなければ、米ぬかをまぶします。
- ・水分が多くなってしまったら、基材や米ぬかななどを追加して調整します。
- ・乾燥気味のときは、米のとぎ汁や水を少し追加して状態をみましよう。

7. **ワンポイント**

【処理の仕組み】

- ・基材となる通気性と保水性に優れたピートモスと微生物の住処となるくん炭、そこに含まれる好気性の微生物が生ごみ等を分解します。

【基材の状態】

- ・基材の適切な水分量は、強く握ると固まるくらいしっとりとして、つつくと崩れるくらいが良い状態です。
- ・基材の白カビは好気性菌で分解されている証拠です。
- ・生ごみの臭いで虫が発生しやすくなります。虫が基材の中に入ると卵を産み繁殖してしまうので注意してください。
- ・虫が発生したら米ぬかを入れてよくかき混ぜておき、分解を促進させ基材温度を上げて虫を死滅させます。
- ・肉や魚類を多く入れると、分解が早まり、温度が上昇しやすいです。野菜類が多い場合は、ゆっくり分解し、温度はそれほど上がりません。

8. 生ごみを投入してから3カ月くらいすると塊が多くなってきます。投入量にもよりますが、量が増えてべたつき、かき混ぜにくくなったきたら生ごみの投入を止めましょう。
生ごみの投入を止め、1～2週間は時々かき混ぜて熟成させます。時々水を加えて切り返しながらか、熱がなくなったら堆肥として使用できるようになります。（おおむね2～3か月位）

【保谷庁舎】ざつがみばっく配布BOXを廃止・移転します



西東京市役所保谷庁舎の解体にともない、保谷庁舎1階に設置されているざつがみばっく提供BOXをエコプラザ西東京1階に移転します。

※『ざつがみばっく』は、市役所田無庁舎2階総合案内横、エコプラザ西東京1階に設置されている専用BOXに毎週一定セット供給しています（お1人様2枚組1セット）希望者多数の場合には提供できない場合もありますのでご了承ください。

●雑がみ類



チラシ・メモ用紙等



ラップの芯等



箱類：
お菓子・食品
ティッシュペーパー等

